熱く　羽ばたけ　大潟っ子

白　鳥

校 長 通 信
大潟村立大潟中学校
令和8年5月29日（金）発行
NO.2　　文責：半田　昌幸

■　小中合同避難訓練　■

５月２６日（火）に小中合同避難訓練を行いました。避難経路の確認が大きなねらいでした。もう一つ、中学生には考えてほしいことがあります。それは「自助・共助・公助」についてです。

「自助」災害時、まず自分自身の身の安全を守ること。家族も含まれます。
「共助」地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うこと。
「公助」市町村や消防、県や警察、自衛隊といった公的機関による救助・援助。

一人ひとりを助け、守ることに必要不可欠となるのは、自ら守る「自助」と、近隣で助け合う「共助」です。（中略）一人ひとりが、「自分の身は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えをもち、日ごろから災害に備えておくことが重要です。　（消防庁ＨＰより抜粋）

大潟中学校の生徒は「人のために役に立つ人間になりたい」という気持ちをもつ生徒が多いことがアンケート結果で示されています。生徒のよさを更に伸ばしていく取組を進めていきます。

★　生徒の避難訓練の振り返り　★

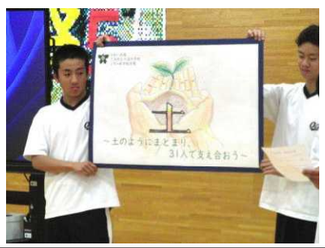
◇避難中に困っている人がいたら助けることは大切。新しい考えをもつことができた。
◇周りに大人がいないということもあり得る。そういうときは先輩として、小学校、こども園の子の手助けをしたい。
◇自分の命は自分で、みんなの命はみんなで守りたい。
◇大潟村の中学生として共助では何ができるか考えてみようと思った。
◇共助、公助といった、大きな規模の助け合いや協力にも目を向けたい。
◇いざというときに互いに共助できるように、普段からのコミュニケーションを大切にしたい。
◇クラス全体で助け合うことも共助の一つ。中学校全体、小学校とも協力しながら避難したい。
◇自分でできることを見付け、もしもの時に役に立つ人間になりたい。
◇大潟村には高齢者が多いので共助の大切さを理解して避難訓練に取り組んだ。
◇自分の命、家族の命、友達の命など、たくさんの命を守るために考えて行動したい。公助にも貢献できるような人になりたい。
◇普段から近所の人などと災害が起こったときの対処法を話しておくべきだと思う。村全体で話し合う機会を増やしてみるとよい。
◇自分で判断して動かなければならないときもあるので、普段から備えておきたい。

■　【学び】【育ち】【心】の３本の柱で生徒を育てる。　■

大潟こども園、大潟小学校、大潟中学校の三校園の教職員が、同じ視点をもって子どもたちの指導にあたっていきます。今年度も三校園では【学び】【育ち】【心】の３つを学校経営の重点においています（下記枠内参考）。

□学校経営の重点
(1) 学力向上の推進【学び】
　① 「主体的・対話的で深い学びの実現」による資質・能力の育成
　② 利便性、ユニバーサルデザイン等につながるＩＣＴ機器の活用
　③ 効果的な家庭学習の在り方
(2) たくましい心と体の育成【育ち】
　① 地域に根ざしたキャリア教育の充実
　② 規律と礼儀を重んじた学校風土づくり
　③ 健康の保持増進と体力の向上
(3) 道徳教育や特別活動の充実【心】
　① 開拓者精神の醸成
　② 思いやりの心の育成
　③ 郷土愛の涵養

互いのよさを認め合う共感的な人間関係づくりを目指し、各学年、学校では様々な取組をしています。５月２７日（水）は「学級宣言集会」を行いました。自分たちが互いを尊重し、様々な意見がある中で折り合いをつけながら、集団生活をよりよくしていこうとする、各学級の思いを紹介し合いました。

＜1年生＞ 自主 ～自分から始める物語（ｽﾄｰﾘｰ）～	＜2年生＞ 土 ～土のようにまとまり、31人で支え合おう～	＜3年生＞ 最終章（ｴﾋﾟﾛｰｸﾞ） ～みんなでつくるプロローグ～
		
①　考えて行動できるクラス ②「誰かを待つ」のではなく「自分から」 ③　笑顔が絶えないクラス	①　一人一人の個性を尊重しながら、集団の力を高めます ②　互いに支え合い、全員が安心して自分らしくいられる場所をつくります ③　最高学年を目指し、泥臭く地道な努力を続けます	①　我々の中学校生活最後を飾るにふさわしい１年にする ②　学年一丸となって、何事にも全力を尽くす ③　中学校生活での努力を、後の未来につなげる